



Wealth On 特集雑誌

ロボティクスAI

解体新書

画面から現実へ

AIの進化によって生まれる
新トレンド

※本レポートは『2026年の注目No.1 EITrend』を、より分かりやすく改題したものです」

物理世界へ進出するAI

これまで世界経済を牽引してきたAIは、今や「画面」の中から、物理的な「身体」を持って現実世界で活動するAIへと進化を遂げようとしています。

その進化に注目しているのは、テクノロジー業界のトップたち。エヌビディアCEOのジェンスン・フアン氏は「AIの次の波」であり、「人類史上最大の産業になる可能性がある」と語り、テスラCEOのイーロン・マスク氏は、ロボット事業が「テスラの価値の8割を占めることになるだろう」と予測しています。

この動きは国策としても加速しています。米国政府は2026年にロボティクス分野の発展を加速させる大統領令を検討。日本政府が成長戦略として掲げた官民投資17分野の中でもロボティクスが言及されており、今後さらに注目されていくことになるでしょう。

このレポートでは、そんな「ロボティクスAI」、ひいてはロボットも含めたあらゆる物理デバイスにAIが搭載されるという巨大な技術革新トレンド「EI (Embodied AI：具現化されたAI)」について解説していきます。

このトレンドこそ、米国株アナリストのショーン・マッキンタイアが「2026年、注目すべきNo.1」であると位置づけ、5,000以上の米国株の中から、たった一つの銘柄を「2026年のNo.1 Stock」として選び出した背景にあるものです。

レポートの後半では、この「EI」トレンドからリターンを狙うための具体的な投資先について、ティッカーシンボルと合わせて公開しています。ぜひ、これからのテクノロジーの未来を見通し、あなたの資産形成に役立ててください。

はじめに

2026年のNo.1 Stockについて、皆さんにお届けする準備が整いました。

日本の投資家の皆さん、こんにちは。レガシーリサーチチームのチーフアナリストのショーン・マッキンタイアです。



No.1 Stockという言葉聞いたことがない人もいらっしゃるかもしれません。

No.1 Stockとは「私がその1年で1銘柄にしか投資できないなら、この銘柄にする」という視点で選び抜いた銘柄です。アメリカには5000以上の銘柄があるので、その中からたった1つだけを選ぶためにリサーチしてきたわけです。

実は私が日本の投資家の皆さんにNo.1 Stockをお届けするのはこれで5回目です。

最初にNo.1 Stockをお届けしたのは2021年末。その時に私は2022年のNo.1 Stockとして、とあるゲーム会社を推奨しました。

今から振り返ると2022年といえばハイテク銘柄が大きく下落した年でした。S&P500は19.6%下落。アップルでも26.9%下落し、エヌビディアでも50.9%下落するほどの下落相場となっていました。

S&P500の株価チャート



TradingView | 2022/01/03-2022/12/30

エヌビディアの株価チャート



TradingView | 2022/01/03-2022/12/30

アップルの株価チャート



TradingView | 2022/01/03~2022/12/30

しかし、そんな中でも私がNo.1 Stockに選んだゲーム会社は2022年の1年間で13.5%上昇しました。

この銘柄に同じタイミングで注目していたのは私だけではありませんでした。私がこの銘柄を推奨した約2ヶ月後の2022年2月、ウォーレン・バフェットも2021年10月から12月の間に、この銘柄を購入していたことが明らかになったのです。

最終的に、2023年10月、マイクロソフトによって買収されましたが、それまでに40.0%も上昇していたのです。

私が2022年のNo.1に選んだ銘柄、それが**アクティビジョンブリザード (ATVI)**

この銘柄の名前自体はあまり聞いたことがないかもしれませんが、2020年12月時点で、世界で2億人以上のユーザーがいた大人気ゲーム「コール・オブ・デューティ」を提供していた企業です。当時のNetflixの

ユーザーが2億2000万人と言われていましたから、それと同じぐらいのユーザーを抱えている、そんな成長企業を選びました。

私はインサイダーではないので、バフェットの投資やマイクロソフトの買収の情報は持っていませんでしたが、独自の銘柄分析手法と情報を元にアクティビジョンをNo.1銘柄に選んだのです。

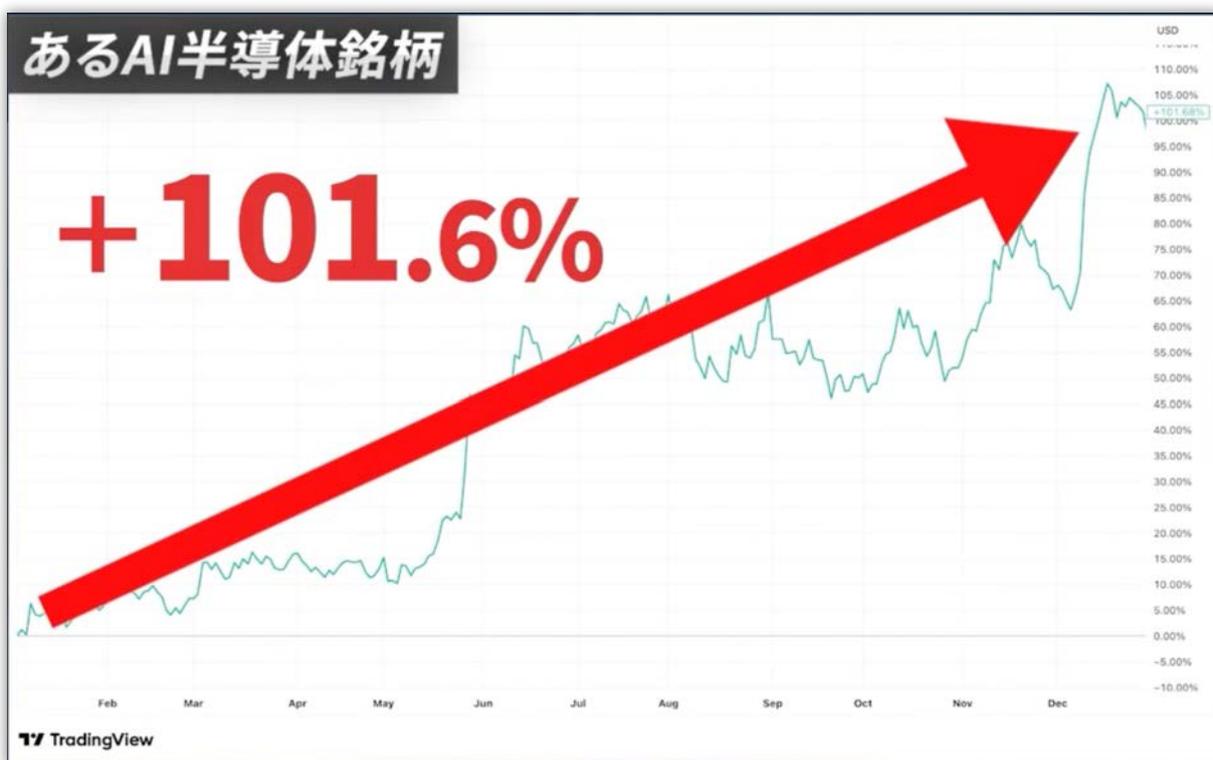
2022年末には、2023年のNo.1 Stockとして、あるAI半導体銘柄を推奨しました。

ChatGPTがリリースされたのが2022年11月なので、その翌月に生成AIに不可欠な半導体銘柄の情報を公開したのです。

ChatGPTの登場に続いてGoogleやAmazonなどがAI開発に注力したことによって、半導体の需要が爆発的に増加しました。

私はAIについて5年以上前からリサーチを進めてきましたが、これほどの需要と成長が発生することを完全に見抜けたわけではありません。しかし、2023年は、2022年、半導体の需要が落ち込んでいたところから一転、半導体の需要が回復していくことを予測していました。

その結果、私の2023年のNo.1銘柄は101.6%上昇。



2025年末の現在まで期間を伸ばしてみると、さらに株価は成長し、646%も上昇していたのです。7倍以上の成長です。



想像してみてください。

あなたが年初に買った1銘柄が、その後7倍以上の成長している様子を。証券口座に「+600%」と緑色で表示されている画面を。

2023年のNo.1銘柄に投資していた人はこれだけのリターンを手にすることができていました。

2023年末には、2024年のNo.1 Stockとして、債券に関連する銘柄を推奨しました。

世界有数の投資銀行ゴールドマンサックスは、2024年は「債券の年」になると分析。投資の神様ウォーレン・バフェットが絶大な信頼を寄せる投資家ハワード・マークス氏も株式よりも債券がもたらす堅実なリターンに注目していました。

2024年のNo.1 Stockは守りの資産である債券関連の銘柄なのでそれまでのNo.1 Stockと比較して、1年で株価が2倍、3倍になるような銘柄ではありません。ですが、私たちに年12回の配当をもたらしてくれる配当が魅力的な銘柄です。

基本的に毎月月初にこの銘柄を保有していれば、その1週間以内に配当金が振り込まれるという配当をすぐに受け取りたいという投資家にとってはぴったりの銘柄だったのです。

そして、2024年末には、2025年のNo.1 Stockとして、ある半導体製造装置銘柄を推奨しました。

なぜ、半導体製造装置に注目したのか？それは、AI半導体がどんどん高性能になっていくにつれて、AI半導体を作るための装置も進化する必要があったからです。

AI半導体を開発するエヌビディアは、多くの投資家から注目を集め、株価はAIブームが始まってから2024年末までに712.4%上昇していました。



TradingView | 2022/11/30~2024/12/30

ですが、半導体製造装置を開発する企業は、AI半導体を作るために必要不可欠なのにも関わらず、まだ注目されていなかったのです。そこで、私は2025年のNo.1の銘柄に、半導体製造装置の中でも、ある分野で100%のシェアを誇っていた企業を選びました。

その結果、私が2025年のNo.1に選んだ銘柄は、約1年間で60%近く上昇。同じ期間のエヌビディアを1.8倍も上回る成長を見せたのです。



TradingView | 2025/01/02~2025/12/10

リターン的大小があるとはいえ、私が選んだNo.1 Stockにその年、株式市場が開いたタイミングで投資していた人はほとんどの人がリターンを手にすることができていたことでしょう。

そして、2026年、私が選んだNo.1 Stockは、2025年のNo.1 Stockと同様に、AIと深く結びついている銘柄です。

ただ、日本の投資家の多くはこのNo.1 Stockの真の価値に気づくのが難しいかもしれません。

なぜなら、このNo.1 Stockの製品は、日本国内で使うと「違法」となってしまいう可能性があるため、まだほとんど流通していないからです。

しかし私が住むアメリカやヨーロッパでは、2023年10月にこの製品が販売されてからたった1年と数ヶ月で販売台数は200万台を突破。

かつてiPhoneがアメリカで発売され、ヨーロッパに広まり、その後日本でも普及していったように、このNo.1 Stockの製品も数年以内に日本でも日常的

に使われる可能性があります。そして、かつて私たちの生活を一変させた iPhoneと同じようなインパクトをもたらす可能性があります。

実際に、iPhoneが発売されたころと同じペースで販売台数を増やしていつているのです。

このことを受けてか、iPhoneを販売するAppleの次期CEO候補の一人であるエディ・キュー氏でさえ「10年後、iPhoneは必要なくなるかもしれない」と発言しているんです。

つまり、私たちは今、アップルがiPhoneを発売した2007年、2008年と似たようなタイミングにいる、ということです。iPhoneが発売された2007年にアップルに投資していれば、5年で約4.8倍、10年で約8.2倍、2025年末までに約59倍に成長しています。そのようなチャンスが今、目前に迫っているのです。

私たちの日常生活を変える新製品が、No.1 Stockによって発売され、もう間もなく日本にも到来しようとしています。ちょっとは2026年のNo.1 Stockについて興味が出てきたのではないのでしょうか？

ですがまずは、2026年のNo.1 Stockについてお話しする前に、2026年の最注目トレンドについてお伝えしたいと思います。

この最注目トレンドは、私がNo.1 Stockを選定するにあたって重要視した要素の1つであり、2026年に大きな転換点を迎える、そう分析した2026年のNo.1トレンドです。

Chapter 01 | 2026年のNo.1トレンドとは？

そのトレンドについて紹介する前に、まずはこちらの写真をご覧ください。



これは私が日本の大阪、心斎橋に行った時の写真です。右に映っているのがもちろん私。そして左に映っているのが2026年のNo.1トレンドを代表する製品です。何かわかりますか？

この製品について、エヌビディアCEOのジェンスンファン氏は、2025年3月に行われたAIカンファレンスで、「人類史上最大の産業になるかもしれない」と発言。

テスラCEOのイーロンマスク氏は、「テスラの価値の80%はこの製品によって生まれる」と発言し、2025年11月には、この製品について「世界経済を10倍、いや100倍に拡大させる可能性を秘めている」とも語っていたのです。

テック業界のトップたちだけではありません。

世界最大級の金融機関であるモルガン・スタンレーは、この製品の市場が「2050年には5兆ドル市場になる」と予測しています。

5兆ドルと言われてもパッとイメージしづらいですね。ちなみに、現在世界トップ20の自動車メーカーの売上高の合計は約2.3兆ドルです。つまり、この製品の市場は自動車産業の2倍の規模に成長すると分析されています。現在、私たちの生活に自動車が必要不可欠のように、2050年にはこの製品も自動車と同じように私たちの生活に欠かせないものになっていくかもしれないのです。

写真を見て、そしてここまでの話を聞いて、2026年のNo.1トレンドはロボットだと思ったかもしれませんが、それは8割ぐらい正解ですが、2割ぐらいは正しくありません。私が2026年、注目しているのは、ロボットを含めたより巨大な技術革新『EI』と呼んでいるトレンドです。

『EI』とはEmbodied Intelligence、具現化されたAIのこと。

ロボットはもちろん、ドローンも、自動運転も具現化されたAI、『EI』トレンドの一部です。

ChatGPTやGeminiをはじめとするこれまでのチャット型のAIは、

- 文章を作る
- 画像を認識する
- データを分析する

など、スマホやパソコンからアクセスする画面の中の二次元の世界でのAIでした。しかし、『EI』は現実世界で人間のように、身体を持って動き出す三次元の世界でのAIです。

おそらく日本の皆さんも、ターミネーターやドラえもん、ベイマックスといったSFのような世界では『EI』を見てきたことでしょう。それがいよいよ2026年から現実世界にも本格的に現れ始めようとしているのです。

実際に、テスラは大量生産に向けた人型ロボットの試作品を「2026年2月、もしくは3月に披露することになるだろう」と発表。年間100万台規模の生産ラインの構築も進めており、2026年末からそのラインを稼働させることを目指しています。

このロボットは1台約2万ドルで販売される可能性があるという報道されています。年間100万台売れば、この事業だけで年間200億ドルの売上。テスラの2024年の年間売上が976億ドルなので、数年以内にテスラの売上の20~30%がこの事業から生まれる可能性があるのです。

さらに、エヌビディアやマイクロソフトといったAIのリーダー企業たちがこぞって出資する人型ロボット開発企業のFigure AIは、2025年3月には自社専用のロボット生産工場を建設。2025年10月には大量生産に向けた最新のロボットを発表し、2026年の量産に向けて動き出しているのです。

そして、OpenAIから出資を受けたノルウェーのスタートアップ企業は、2025年10月に家庭用人型ロボットを正式にリリース。私たちの代わりに掃除や片付けなど日常的な家事をこなしてくれるこのロボットは、すでに先行受付を開始しており、2026年に出荷される予定となっています。

これはかつて、

- 2007年にアップルがiPhoneを出してからスマホ市場ができたように…
- 2022年にOpenAIがChatGPTを出してから生成AI市場ができたように…

2026年に投入予定のこれらのAI製品によって、『AI』の新市場がスタートしていくのです。

AIのトレンドにとって、「2026年」という1年がいかに重要な時間かが伝わってきましたか？

ですが、私が2026年のNo.1トレンドが『AI』だと考える理由はこれだけではないのです。

2025年12月3日、あるニュースが飛び込んできました。

「トランプ政権が『ロボット産業の発展を加速させるための大統領令』を2026年に発動することを検討している」

米国の商務省は「重要な生産を米国に戻す上で中心となるロボット工学と先進製造業に注力している」と発表。商務長官のハワード・ラトニック氏は、ロボット企業のCEOと会談し、ロボット産業の発展に「全力を尽くす」ことを明言したのです。

さらに、商務省だけではなく、運輸省もこのロボット産業の発展を加速させる取り組みへ参加する準備を進めており、ロボット産業が、国をあげた一大プロジェクトになる可能性を秘めているのです。

Chapter 02 |

No.1トレンドに乗る方法

では、『EI』という2026年のNo.1トレンドに乗るためにはどうすれば良いのか？

まずは、EIトレンドに乗るための一番わかりやすい方法をお伝えしましょう。この方法はどのEI企業がこの先シェアを取ったとしても、EIというNo.1トレンドからリターンを狙うことができます。

それは、EI関連ETFに投資することです。

このETFに投資することで、EIトレンドに乗る複数の企業に、一度に投資できるというメリットがあります。どの企業が最終的に勝者になるのかわからない場合や、とりあえずEIトレンド全体に乗っておきたい人には、この方法が一番わかりやすいでしょう。

例えば、**グローバルX ロボット&AI ETF (BOTZ)** があります。

私は2019年12月にもこのETFを推奨したことがあります。その時も、ロボットという巨大なトレンドの市場全体の成長をとらえるための銘柄として紹介しました。

私が推奨してから2025年末までで66%成長していますが、これからもEIトレンド全体に乗っていくための銘柄として、1つの選択肢となるでしょう。



TradingView | 2019/12/17~2025/12/10

ですが、このEITレンドに乗って、もっと高いリターンを狙う方法もあります。

それが2026年のNo.1 Stockに投資するという方法です。

先ほど紹介したETFに投資することは、EITレンド全体に乗ることができ、勝者銘柄を見つける必要がないというメリットがあります。しかしその一方で、たとえ1つの銘柄が大きな上昇を見せたとしても複数の銘柄に分散していることによって、その上昇が他の銘柄によって薄められてしまうというデメリットもあるんです。

実際の事例をお見せしましょう。私は2022年末、半導体銘柄が大きく上昇すると分析し、2023年のNo.1 Stockに半導体銘柄を選びました。

もしあなたが、私のNo.1 Stockに投資していた場合、2025年末までに646%の上昇を掴むことができていました。

ただし、もしあなたが半導体トレンド全体に乗る選択肢として、ヴァンエック・半導体 ETF (SMH) に投資していた場合はどうでしょうか？

この半導体ETFの中にはもちろん、2023年のNo.1銘柄も含まれています。

しかし、上昇が他の銘柄へ分散された結果、ETFに投資するよりもNo.1銘柄に投資していた方が、約2.3倍も高いリターンが狙えていたのです。



TradingView | 2025/01/02~2025/12/10

もちろん、大きな上昇を狙うにはリスクもあります。ETF以上に成長する個別銘柄、No.1 Stockを見つけなければならないからです。

ですが、私は20年以上、さまざまなトレンドと銘柄を分析する中で、ETF以上に成長する、つまりそのトレンドの中でも力強い上昇を見せる銘柄を探し出す方法を見つけたのです。

Chapter 03 |

No.1 Stockを見つけ出す分析手法

それは、そのトレンドの核となる“マスターキー”に投資をするという方法。私はこのマスターキーを持つ銘柄を2026年のNo.1 Stockに選ぶことにしたのである。

思い出してみてください。

AIブームで最大の勝者となったのはChatGPTやGeminiといったAIサービスを作る企業ではなく、AIを動かすGPUを作ったエヌビディアだったということ。

そして、iPhoneにおいても、iPhoneを売ったアップルではなく、その内部の部品を作った企業がアップル以上の成長を見せていたのです。

例えば、スカイワークスソリューションズ。

iPhoneの通信技術を支えるこの企業も、iPhoneの発売から14倍の株価成長を遂げました。

同じ期間のアップルは10年間で+690%のリターン、つまり約8倍のリターンです。

このようにiPhoneに必要な不可欠な技術を持っている企業に投資をすることで、10倍を超える株価成長を遂げ、アップル以上の投資リターンを得ることができたのです。

なぜスマートフォンブームで、iPhoneを開発したアップルよりもこの銘柄の方が成長したのか？

それは、これらの企業の製品や技術がiPhone以外のスマホにも使われているからです。

アップルを超えるスマホシェアを握っていたファーウェイのスマートフォンにも、スカイワークスのチップが搭載されているのです。

- 生成AIのマスターキーがエヌビディアのGPUだったように
- スマートフォンのマスターキーがスカイワークスのチップだったように

EIにも同じような現象が起きるとみています。

そこで私はEIにとってのマスターキーを時間をかけてリサーチすることにしたのです。

すると、EIが本当の意味で私たちの生活に変化をもたらすまでに進化するために、「致命的な欠陥」が生じていることに気がつきました。

それは学習データが圧倒的に不足しているということ。

カリフォルニア大学バークレー校のロボット研究者ケン・ゴールドバーグ教授の試算では、今のペースでロボットの学習データを集めていくと、人間並みの汎用ロボットが生まれるまでに“約10万年”かかると言われています。

この数字は決して大袈裟ではありません。ChatGPTはインターネットという人類の知識が凝縮された広大な海から生まれました。

その学習データ量は、人間が読み通すのに約10万年かかると試算されるほどの膨大なデータ量です。

しかし、EIの世界はまったく状況が異なります。

EIは人間のように文章を読んだだけで学べるわけではありません。

「持ち上げる」「掴む」「歩く」など、現実世界で身体を動かしながら、一つ一つの動作を実体験として学習していく必要があるのです。

ゴールドバーグ教授によると、現在公開されている世界中のロボット用の学習データをかき集めたとしても“せいぜい1年分程度”しかないと言われていています。

つまり、現在のデータ収集ペースのままChatGPT規模のデータセットをロボット用に構築しようとするれば、文字通り10万年の歳月が必要になるのです。誰も10万年もの時間を待つことはできません。

ですが、投資家は「新しいトレンドの致命的な欠点」に目を向けることで、普通の人手が手にできないほどのリターンを狙うチャンスを掴むことができるのです。

そこで私は、ロボットの学習時間を大幅に短縮できる技術、「EIにとってのマスターキー」を所有する企業に注目したのです。

この企業は10万年という問題を解決するためにこれまで数百億ドル規模の投資を実行し、2025年末にはその投資額は累計1000億ドル以上を越えると言われていています。それほどの莫大な金額を投入してマスターキーの研究・開発を進めてきました。

その結果、

- マスターキーによって従来の手法よりもパフォーマンスが400%向上した
- マスターキーによってロボットの学習ゼロでタスクをこなせるロボットを作ることに成功した

など、すでに成果を出し始め、10万年の問題をこの企業が持つマスターキーが、一気に短縮する可能性を秘めていることに気づきました。

そして実は、冒頭でお話しした、日本ではまだ「違法」とされる製品もロボットとはまた違ったEIの製品の1つ。このEI製品にもすでにマスターキーが組み込まれています。

まさにこのマスターキーを作っている企業こそ、EIという2026年のNo.1トレンドの中でキープレイヤーとなる可能性があるのです。

そこで私は、EIに不可欠なマスターキーと、そのマスターキーで最前線にいる企業を、2026年のNo.1企業として、レポート「Sean's No.1 Stock for 2026」にまとめました。

この特別レポートの入手方法は、動画版で紹介しています。

ぜひ、動画版「ロボティクスAI 解体新書」をご覧ください。

— 免責事項 —

- ・本コンテンツは、お客様の投資判断や運用戦略の参考となる情報の提供を目的として作成されたものです。有価証券の取引等の投資は、ご自身の判断と責任において行ってください。
- ・本コンテンツは、将来の成果を保証するものではありません。
- ・本コンテンツに掲載している情報の収集・分析等については、できる限り注意を払っておりますが、これらの情報についての完全な正確性及び信頼性等を保証するものではありません。
- ・本コンテンツの利用等に関し、お客様に生じたいかなる損害についても、弊社は何ら責任を負うものではありません。
- ・本コンテンツの情報（投資銘柄、投資手法等）は、情報そのものに価値があります。本コンテンツの情報を、出版・講演活動及びその他一切の商用目的に利用すること並びにブログ・SNS・電子メディアによる配信等により購入者以外の第三者に公開することを固く禁じます。そのような行為は、損害賠償請求等の法的な対応の対象となります。

『ロボティクスAI 解体新書』

発行日 2026年3月初版発行

著者 大富豪の投資術編集部

発行者 江崎孝彦

発行所 株式会社Wealth On

〒541-0052

大阪府大阪市中央区安土町2丁目3-13

大阪国際ビルディング23F